

取扱説明書

工事説明付き

ワイヤレスインターカムシステム

ポータブルトランシーバー

品番 **WX-CT11A、WX-CT12**



上手に使って上手に節電

もくじ

ご使用前に

はじめに	2
安全上のご注意	4
取り扱い上のお願い	6
各部のなまえ	7

準備

電池を入れる	8
装着する	9

操作

通話をする	10
緊急連絡をする	11

設定

設定の前に	12
トーク・マルチボタンの動作モードを設定する	13
シフトボタンの動作モードを設定する	15
周波数を設定する	17
従来システムとの接続設定をする (WX-CT11Aのみ)	19
IDを設定する (WX-CT11Aのみ)	21
各種機能を設定する	22

その他

故障かな!?	24
ユーザー通知一覧	25
仕様	27
保証とアフターサービス	裏表紙

ご使用前に

準備

操作

設定

その他

保証書別添付

このたびは、ワイヤレスインターカムシステム ポータブルトランシーバーをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(4～5ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

はじめに

商品概要

本機はワイヤレスインターカムシステムに使用するポータブルトランシーバーです。センタートランシーバーおよびセンターユニットを中継局として、本機間での双方向通話やセンターマイクなどの外部機器との双方向通話ができます。

WX-CT11A：カスケードシステム（※3ページ）には使用できません。

WX-CT12：カスケードシステム（※3ページ）にのみ使用できます。

- 電源には単4形電池（3個）を採用し、乾電池と充電電池パック（別売品）の2種類を使用することができます。
- 充電電池パック使用時は、専用の充電器（別売品）により、本体に充電電池パックを装着したまま充電が行えます。
- マイクを内蔵していますので本機を接話マイクとしても使用できます。また、別売の接話マイクロホンやヘッドセットと組み合わせることもできますので、用途に合わせた使い方が選択できます。

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）……………1
保証書……………1

以下の付属品は取付工事に使用します。

装着用クリップ……………1
装着用クリップ取付ねじ……………1
チャンネル設定用小型ドライバー……………1

別売品について

本機の別売品として次のものを用意しています。（品番は2004年1月時点のものです。）

品名	品番	備考
接話マイクロホン	WX-CM11	トークボタンのみ
接話マイクロホン	WX-CM12	トークボタン、マルチボタンの両方を装備
ヘッドセット	WX-CM13	
充電器	WX-CB10	本機を5台同時に充電可能
充電電池パック	WX-CB11	
充電電池専用ケース	WX-CB12	充電電池パック使用時に必要
マグネットクリップキット	WX-CZ14	

本書について

本書は、本機の説明について説明しています。システムでご使用になるときは、センターユニットの取扱説明書を合わせてお読みください。

免責について

- 弊社は如何なる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。
 - ①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
 - ②お客様の誤使用や不注意による損害または本商品の破損等
 - ③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
 - ④本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、通話できないことによる不便・損害・被害
 - ⑤第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
 - ⑥第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害

電波法に義務づけられている、「キャリアセンス機能」（第三者が同じ周波数帯を使用中の間は、通話を開始できない）により、通話に制限を受けることがあります。
 - ⑦故意または偶然の結果、通話内容が第三者に傍受・漏えいすることによる不便・損害・被害

本商品の無線通話はアナログ方式を採用しており、傍受を抑止する機能はありません。故意または偶然の結果、第三者が傍受し、通話内容を知り得ることがあります。

用語・記号について

本書では、以下の用語および記号を用いて説明しています。

グループ

ポータブルトランシーバーを業務単位で区切った集まりをあらわします。

グループは、ポータブルトランシーバーが通信するセンタートランシーバーにより構成されます。

エリア

1つのグループが通信可能な範囲（広さ）をあらわします。

エリア拡大

複数のセンタートランシーバーを用いて、1つのグループが通信可能な範囲（広さ）を拡大すること、もしくはそのシステム構成をあらわします。

カスケードシステム

センターユニットを2台または3台接続し、センタートランシーバーの台数（12台まで）を増やすことで、「エリア拡大」よりもさらに広いエリアを1つのグループで運用できるシステムです。

ID

センターマイクから任意のポータブルトランシーバーを個別に選択して通話する際に必要な、個々のポータブルトランシーバーに割り当てる番号です。

交互通話

ポータブルトランシーバーまたはセンターマイクと、別のポータブルトランシーバー間の通話において、一方の通話が終了してから、もう一方が通話を開始する（交互に通話する）ことです。

同時通話

ポータブルトランシーバーまたはセンターマイクが通話をしているときに、別のポータブルトランシーバーなどが割り込んで同時に通話をすることです。ポータブルトランシーバーが同時に通話できる人数は、システムの構成により異なります（最大4人）。本システムでは、同時通話できる人数は1人分制限されることがありますが、いったん全員の通話が終わると、最大人数まで通話できるようになります。



重要 : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



メモ : 使用上のヒントが書かれています。

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)

	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

ご使用前に

警告

<p>分解しない、改造しない</p>  <p>火災や感電の原因になります。</p> <p>分解禁止</p> <ul style="list-style-type: none">●修理や点検は、販売店にご連絡ください。	<p>異物を入れない</p>  <p>水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因になります。</p> <p>禁止</p> <ul style="list-style-type: none">●ただちに電源を切ってから、販売店にご連絡ください。	<p>異常があるときは、すぐ使用をやめる</p>  <p>煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none">●ただちに電源を切ってから、販売店にご連絡ください。
<p>専用の充電器以外で充電しない</p>  <p>発熱、破裂の原因になります。</p> <p>禁止</p>	<p>病院内や医用電気機器のある場所では電源を切る（手術室、集中治療室、CCU*などには持ち込まない）</p>  <p>本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。</p> <p>*CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。</p>	

⚠ 警告

航空機内では電源を切る



運航の安全に支障をきたす恐れがあります。

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない



禁止

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

ご使用前に

⚠ 注意

電池は極性（プラス+とマイナス-）を正しく入れる



電池の破裂や液漏れにより火災、けがや周囲を汚損する原因となります。

違う種類の電池や新旧の電池を混ぜて使用しない



禁止

電池の破裂や液漏れにより火災、けがや周囲を汚損する原因となります。

ニカド電池は使わない



万一、内部が破損していた場合、発火の原因となります。

取り扱い上のお願い

●技術基準適合証明ラベルについて

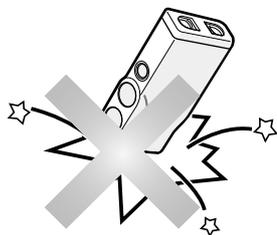
本機は、電波法で規定される技術基準適合証明品です。機器一台一台にその証明番号（証明ラベル）が貼ってあります。みだりに剥がしたり損傷の無いようご使用ください。

●違法改造しないで

本機を分解したり、内部の部品に触ったりしないでください。改造することは法律で禁じられています。

●取り扱いはていねいに

落としたり、物に当てたりしないでください。（強い衝撃を与えない）

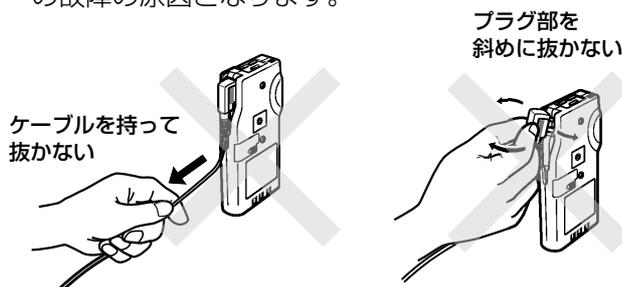


●接続ケーブルを抜くときは

接続ケーブルを抜く際は、図のようにプラグの樹脂モールド部を持って、まっすぐ水平に抜いてください。



ケーブルを持って引き抜いたり、プラグ部を斜めの方向に引き抜くなど、無理な抜きかたは絶対におやめください。プラグ部および接続端子部などの故障の原因となります。



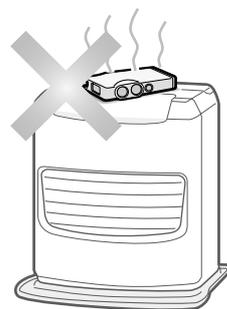
●水滴が付いたときは

すぐに電源を切り、乾いた布でふいてください。その後よく乾かしてからご使用ください。雨天での使用やぬれた手での使用・充電は避けてください。



●放置しない

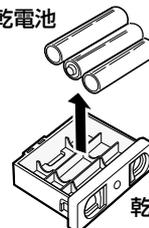
ストーブの上や真夏の閉め切った車内のような温度の高い場所・湿度の高い場所には放置しないでください。



●長期間使用しないときは

2週間以上使用しないときは、乾電池を取り出してください。

単4形乾電池

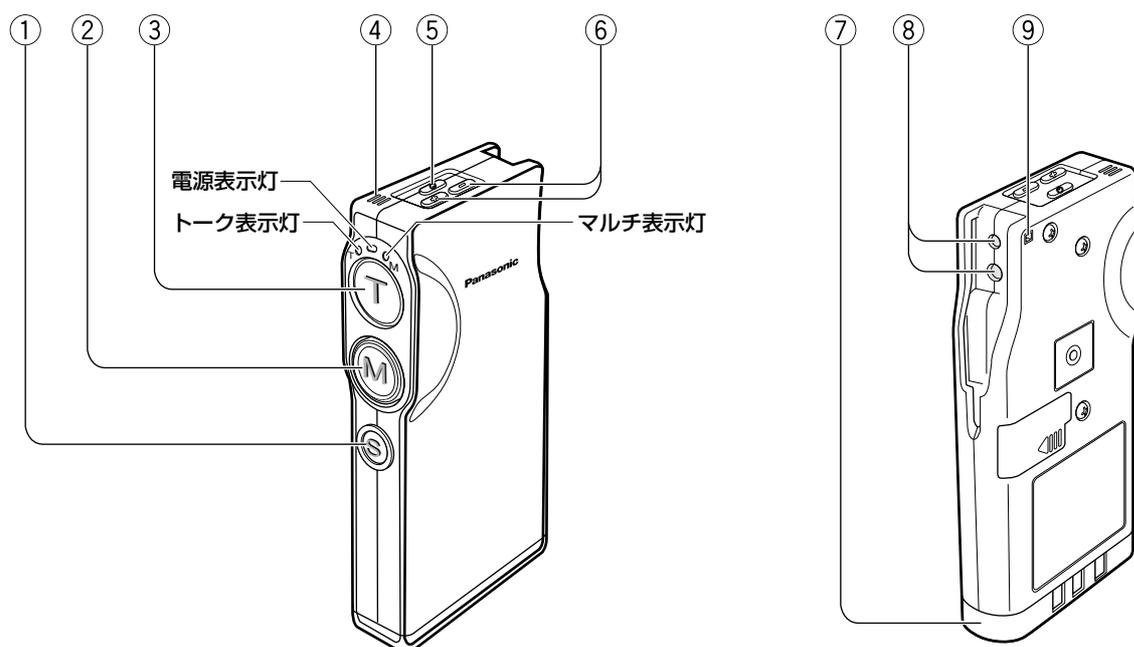


●お手入れは

- 電源を切り乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 電池の電極や電池ケースの端面は汚れた手で触れないでください。接触不良やノイズの原因となります。

汚れたときは乾いたやわらかい布などでよく磨いてください。また、電池ケース外側の接触端子は汚れが付きやすいので、定期的（月に1回程度）にエチルアルコールで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの溶剤や金属磨きなどの研磨剤を使用すると、変形・変色やメッキがはがれてきますので使用しないでください。

各部のなまえ



ご使用前に

① シフトボタン

グループを移動するときに使用します。
詳細はセンターユニットの取扱説明書をお読みください。

② マルチボタン

- 通話をするときに使用します。通話中はマルチ表示灯が点灯します。
- 本ボタンの動作状態には“プレストーク”“トークロック”“緊急”“無効”の4種類があり、工場出荷時は“プレストーク”に設定されています。お買い上げの販売店に設定状態をご確認ください。

プレストーク：ボタンを押している間だけ音声
が送信されます。

トークロック：ボタンを押すごとに、音声送信
と送信停止が切り換わります。

緊急：緊急連絡などを行うモードです。
ボタンを1秒間以上押し続けると各送信先に
ピープ音を鳴らし、音声を送信します。

無効：ボタンを押しても音声送信は行
われません。

③ トークボタン

- 通話をするときに使用します。通話中はトーク表示灯が点灯します。
- 本ボタンの動作状態には“プレストーク”“トークロック”“無効”があります。(マルチボタンの“プレストーク”“トークロック”“無効”と同じです。)

④ 内蔵マイク

接続端子⑧にマイクロホンを接続すると、内蔵マイクは無効になります。

⑤ 電源ボタン

電源をON/OFFします。電源をON/OFFするとき
は、1秒程度押し続けてください。

⑥ 音量ボタン

+ボタン、-ボタンを押して受話音量を調節しま
す。

⑦ 乾電池ケース

単4形乾電池（3本）を収納します。

⑧ 接続端子

接話マイクロホン、ヘッドセットなどを接続しま
す。

⑨ ストラップ取付部

別売のマグネットクリップキット WX-CZ14に付
属されているネックストラップを取り付けます。

電池を入れる

乾電池を使用するとき

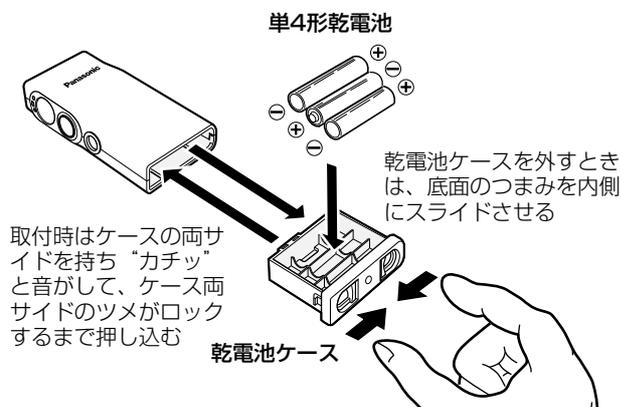
市販のパナソニック製単4形アルカリ乾電池（LR03G）をご使用ください。

1 乾電池ケースを外し、アルカリ乾電池（3本）を取り付ける

- +（プラス）と-（マイナス）の向きを正しく取り付けてください。

2 乾電池ケースを元どおり取り付ける

- 乾電池ケースの両サイドを持って、ロックするまでしっかりと押し込んでください。
- 装着後は電源を入れ、電源表示灯が“緑”点灯することを確認してください。“赤”点灯は電池が消耗していることを表します。



- 乾電池ケースの中央部分を押し装着すると、片側のツメしかロックされない場合があります。
- 乾電池は3本とも新品のものをお使いください。使用済みの乾電池と新品の乾電池を混ぜて使用しないでください。また、乾電池を交換するときは、3本同時に行ってください。

準備

専用の充電電池パックを使用するとき

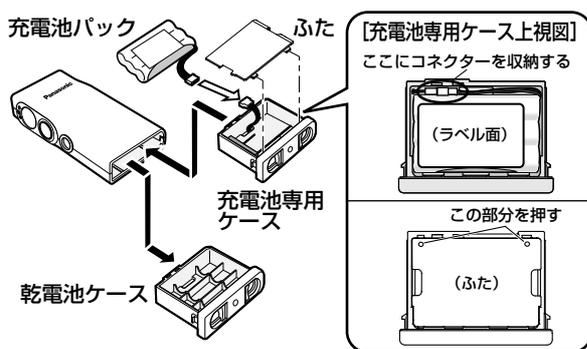
専用の充電電池パック WX-CB11と充電電池専用ケース WX-CB12をご使用ください。また、充電の際は専用の充電器 WX-CB10をご使用ください。（各機器の取扱説明書も必ずお読みください。）

1 乾電池ケースを外す

- 外した乾電池ケースは大切に保管してください。

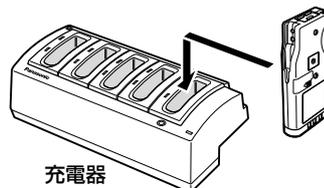
2 充電専用ケースに充電電池パックを取り付け、本機に装着する

- 充電専用ケースの両サイドを持って、ロックするまでしっかりと押し込んでください



3 充電する

- 専用の充電器で充電してください。約3時間で充電が完了します。
- “カチッ”という感触があるまで、しっかりと差し込んでください。



- 充電専用ケースの中央部分を押し装着すると、片側のツメしかロックされない場合があります。
- 初めて使用するときや長期間（3ヶ月以上）使用していなかったときは、電池の特性により1回の充電では満充電にならない場合があります。このようなときは、2,3回充放電を繰り返してください。
- 充電電池パックは、使用していなくても自己放電により容量が低下します。必ず充電をしてからお使いください。
- 充電電池パックは消耗品です。電池の寿命は使用環境により異なります。正しく充電を行っても使用時間が著しく低下したときは寿命ですので、新しい充電電池パックと交換してください。

装着する

付属の装着用クリップを使用するとベルトなどに挟み込むことができます。また、別売のマグネットクリップキットや市販のストラップを使用して首からぶら下げることができます。

装着用クリップを使用するとき

1

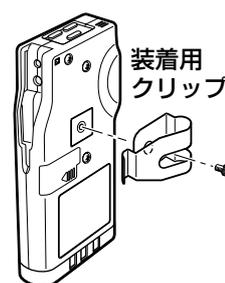
装着用クリップを取り付ける

- 本機を装着する向き（縦または横）に合わせて装着用クリップを取り付けます。
- 取り付けは、必ず付属の取付ねじを使用してください。

【縦向きに装着する場合】



【横向きに装着する場合】



2

本機を装着する

- ベルトなどに挟み込んでください。



- ねじを強く締めすぎると、ねじが破損する恐れがあります。
推奨締付トルク：約0.49 N・m {5 kgf・cm}

通話をする

トークボタンまたはマルチボタンを押して通話します。

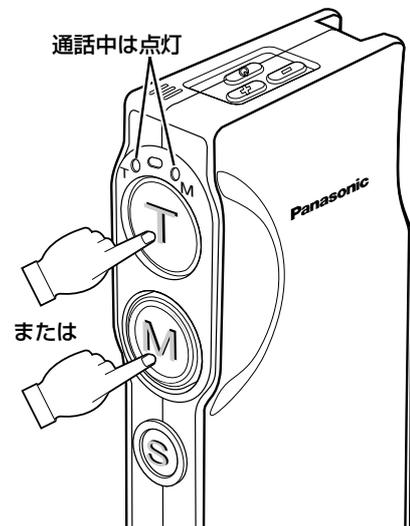


- 複数のポータブルトランシーバーが、同時にトークボタンまたはマルチボタンを押して送信すると、耳障りなビートノイズが発生します。その場合は、一度送信を中止してやり直してください。
- WX-CT12でご使用の場合は、ボタンを押して“ピピッ”と鳴った後、1秒程度間を空けてから話してください。はじめの約1秒間は音声がない場合があります。
- WX-CT12をご使用の場合またはWX-CT11Aをエリア拡大でご使用の場合は、電源を入れた直後またはシフトボタンを操作した後で、最大10秒程度通話できない場合があります。詳しくは、センターユニットの取扱説明書をお読みください。

●トークボタンまたはマルチボタンの動作状態が“プレストーク”の場合 (工場出荷時設定)

1 トークボタンまたはマルチボタンを押し続け、“ピピッ”と鳴ったらマイクに向かって話す

- 押したままの状態でお話してください。
- 話すときは、マイクにできるだけ口元を近づけてください。
- “ブブブッ”と鳴ったときは、他のメンバーが話し中などのため、やり直してください。

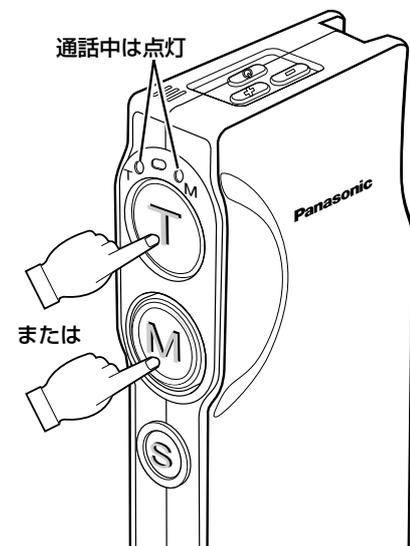


2 話し終わったらトークボタンまたはマルチボタンを離す

●トークボタンまたはマルチボタンの動作状態が“トークロック”の場合

1 トークボタンまたはマルチボタンを一度押し、“ピピッ”と鳴ったらマイクに向かって話す

- 話すときは、マイクにできるだけ口元を近づけてください。
- “ブブブッ”と鳴ったときは、他のメンバーが話し中などのため、やり直してください。



2 話し終わったら、もう一度トークボタンまたはマルチボタンを押す

緊急連絡をする

緊急連絡とは、本機のマルチボタン動作を“緊急”に設定したときの通話状態です。この機能は、トラブルが発生したときの緊急連絡用として使用するものです。

1 マルチボタンを約1秒押し続ける

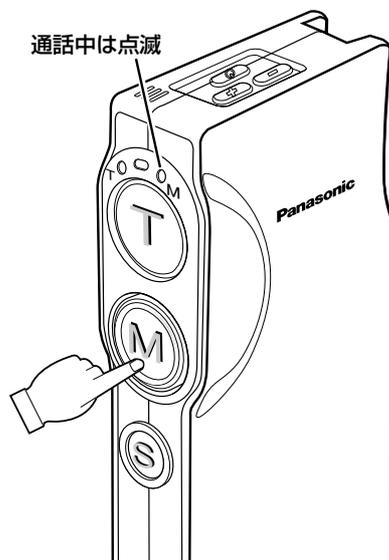
- 各送信先とつながるまでビープ音（ブピブピブピ…）を送り続けます。

2 ビープ音が鳴り終わったらマイクに向かって話す

- 通話中は、5秒間隔で“ブピブピ”と緊急状態を示すビープ音が鳴ります。

3 緊急連絡を終了するときは

- 再度マルチボタンを1秒間押し続けるか、電源を切ってください。
- センターユニットまたはセンターマイクから緊急連絡状態を解除できます。

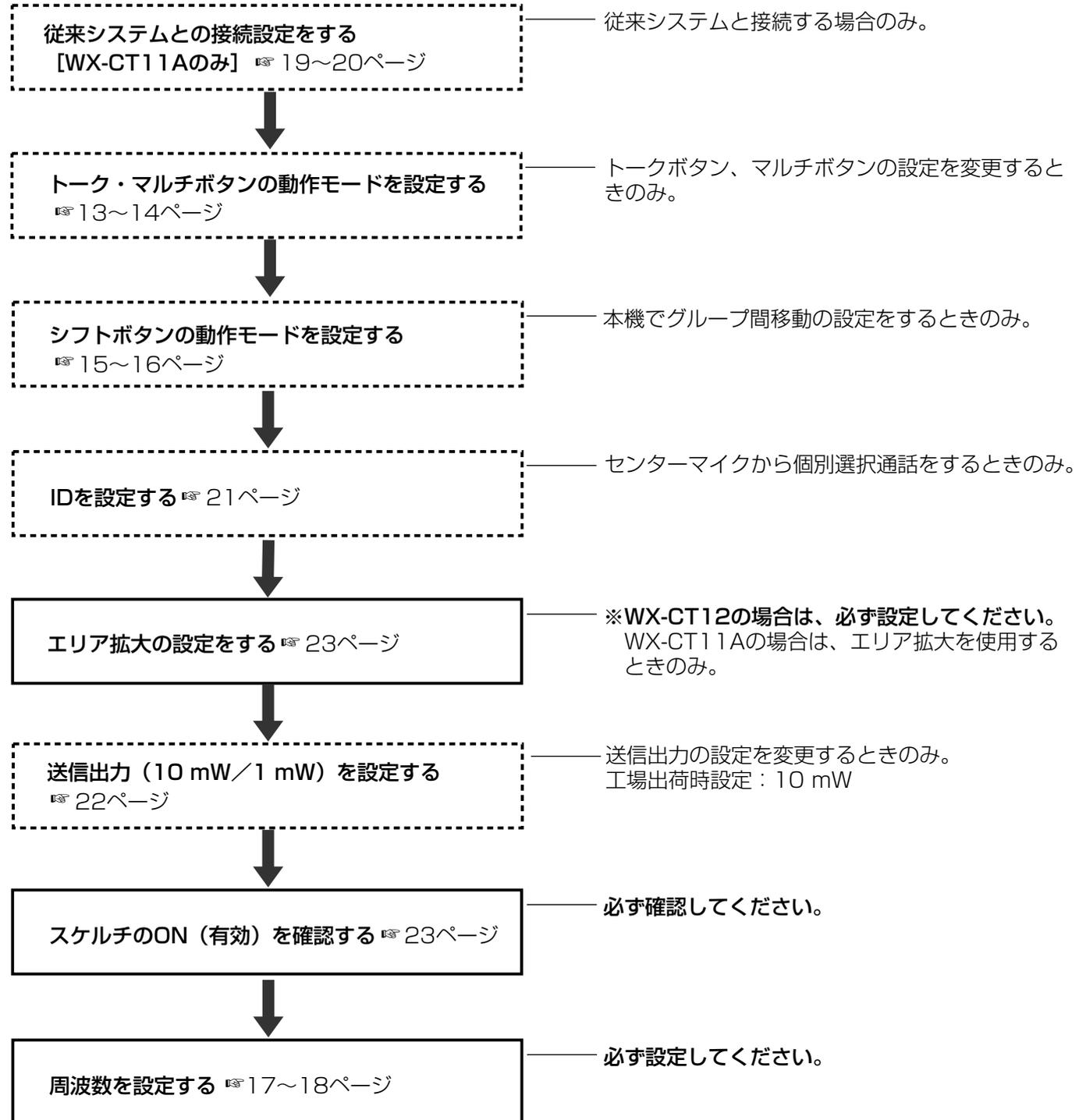


-  ●本機の送信出力を“10 mW”で使用する場合、法律の規定により3分間通話をするると自動的に通信を切断し、2秒間通信が禁止されます。
1～9回目の切断時には本機が自動で再接続を行いますが、10回目以降の切断時には操作が必要です。
- 接話マイクロホンのマルチボタンで操作する場合も、同様に1秒間押し続けることで緊急連絡の開始または解除になります。

設定の前に

設定手順

本機の設定は、以下の手順に従って行ってください。



▭ は、必ず行ってください。
▭ は、必要に応じて行ってください。

トーク・マルチボタンの動作モードを設定する

本機のトークボタンとマルチボタンの動作状態を設定します。

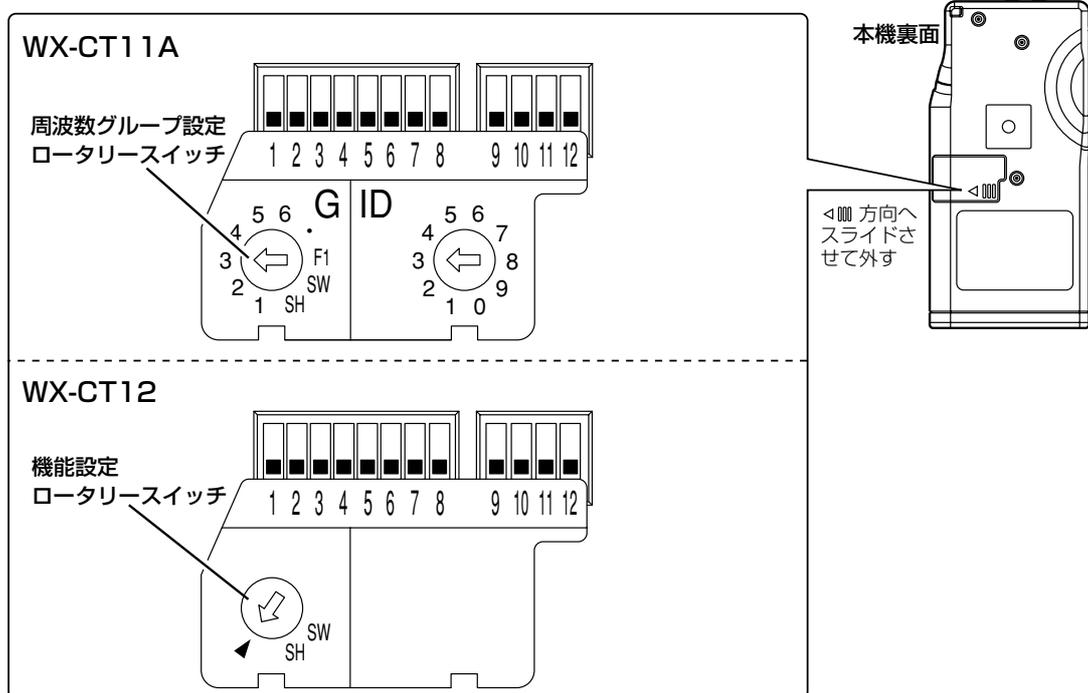
- トークボタンの動作モード
 - トークロック : ボタンを押すごとに、音声送信と送信停止が切り換わります。
 - プレストーク : ボタンを押している間だけ音声を送信されます。(工場出荷時設定)
 - 無効 : ボタンを押しても音声送信は行われません。
- マルチボタンの動作モード
 - トークロック : ボタンを押すごとに、音声送信と送信停止が切り換わります。
 - プレストーク : ボタンを押している間だけ音声を送信されます。(工場出荷時設定)
 - 緊急 : 緊急連絡などを行うモードです。ボタンを押すと各送信先にビープ音を鳴らし、音声を送信します。
 - 無効 : ボタンを押しても音声送信は行われません。



- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。

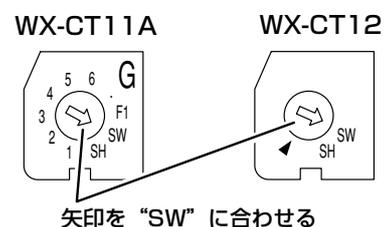


- 接話マイクロホンのトークボタンは、本機の設定に関わらず“プレストーク”の動作になります。
- マルチボタンの設定を“緊急”にしたときは、接話マイクロホンのマルチボタンも“緊急”の動作になりますが、マルチボタンを他の設定にしているときは、接話マイクロホンのマルチボタンはプレストークの動作になります。



1

電源OFFの状態で、ロータリースイッチを“SW”に設定する



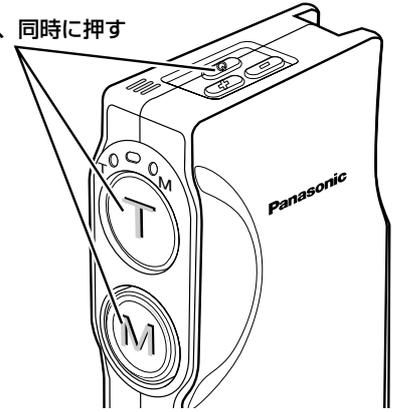
トーク・マルチボタンの動作モードを設定する (つづき)

2

電源ボタン、トークボタン、マルチボタンを同時に押す

- 1秒程度押し続けてください。初期設定モードで本機が起動します。
(電源表示灯“橙”点灯)

1秒程度、同時に押す

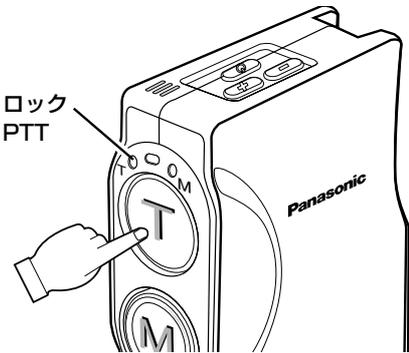


3

トークボタンの動作モードを設定する

- トークボタンを押し、動作モードを選択してください。
押すたびに動作モードが切り換わります。
トークロック→プレストーク→無効
→トークロック→…
- 設定状態は、トーク表示灯で確認できます。
トークロック選択時 : 点灯
プレストーク選択時 : 点滅
無効選択時 : 消灯

点灯：ロック
点滅：PTT



4

マルチボタンの動作モードを設定する

- マルチボタンを押し、動作モードを選択してください。
押すたびに動作モードが切り換わります。
トークロック→プレストーク→緊急
→無効→トークロック…
- 設定状態は、マルチ表示灯で確認できます。
トークロック選択時 : 点灯
プレストーク選択時 : 点滅
緊急選択時 : 2回点滅の繰り返し
無効選択時 : 消灯

ロック：点灯
PTT : 点滅
エマージェンシー：
2回点滅の繰り返し
無効 : 消灯

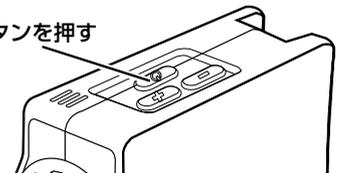


5

電源を切る

- 電源ボタンを約1秒間押してください。

電源ボタンを押す

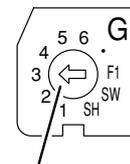


6

周波数グループを設定 (17~18ページ) し、電源を入れる

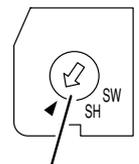
- 電源ボタンを約1秒間押して電源をONにすると、設定した内容でトークボタンとマルチボタンが動作します。

WX-CT11A



矢印を使用する周波数グループに合わせる

WX-CT12



矢印を“ ”に合わせる

シフトボタンの動作モードを設定する

シフトボタンの動作を設定することにより、グループ間の移動が可能になります。

●WX-CT11Aの動作モード

無効 : グループ移動はできません。(工場出荷時設定)

4シフト : 4つのグループを移動できます。(グループ1→2→3→4→1…)

チャンネル設定ディップスイッチ (☞17~18ページ) のうち、“ON” に選択されているチャンネルを順番に移動します。

※同時通話のシステムには使用できません。

2シフト : 2つのグループを移動できます。(グループ1 (2) →3 (4) →1 (2) …)

チャンネル設定ディップスイッチ (☞17~18ページ) のうち、“ON” に選択されているチャンネルを1→3→1…または2→4→2…に移動します。

※3~4人の同時通話のシステムには使用できません。

●WX-CT12の動作モード

無効 : グループ移動はできません。(工場出荷時設定)

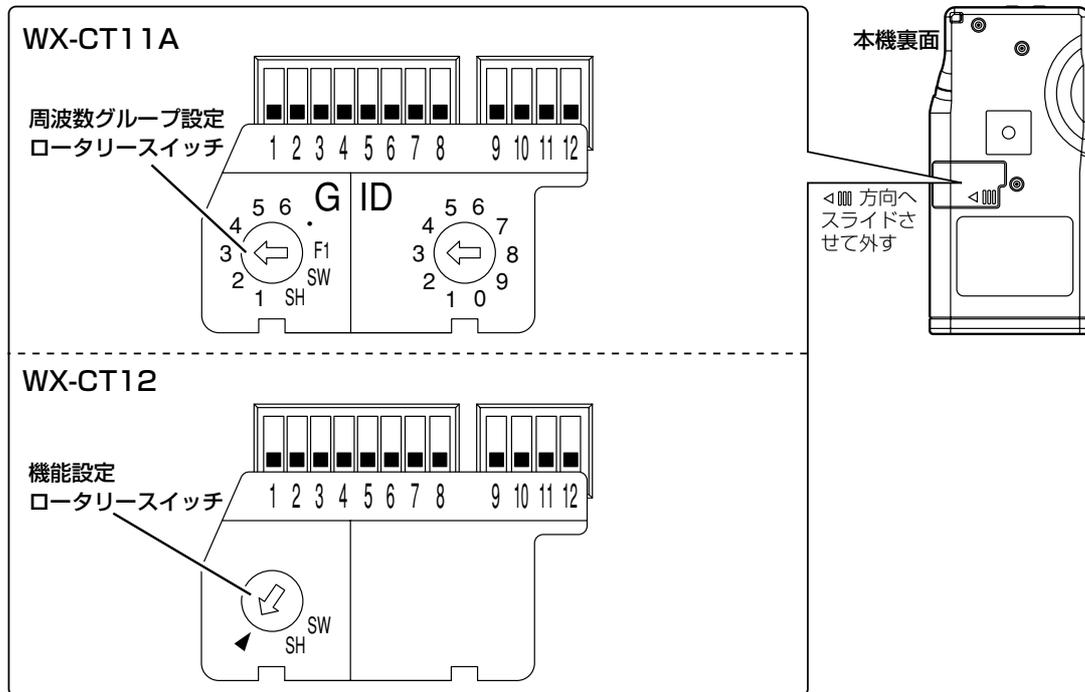
システムを1つのグループで使用する場合、またはグループの移動をしない場合の設定です。

3シフト : 3つのグループを移動できます。(グループ1→2→3→1…)

周波数グループ設定ディップスイッチ (☞17~18ページ) のうち、“ON” に選択されている周波数グループを順番に移動します。

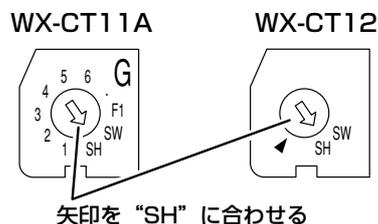


●設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



1

電源OFFの状態で、ロータリースイッチを“SH”に設定する



設定

シフトボタンの動作モードを設定する (つづき)

2

電源ボタン、トークボタン、マルチボタンを同時に押す

- 1秒程度押し続けてください。初期設定モードで本機が起動します。
(電源表示灯“橙”点滅)

1秒程度、同時に押す



3

シフトボタンの動作モードを設定する

- 音量ボタン (+, -) を押し、動作モードを選択してください。押すたびに動作モードが切り換わります。

WX-CT11A

無効⇄4シフト⇄2シフト⇄無効…

WX-CT12

無効⇄3シフト

- 設定状態は、トーク表示灯とマルチ表示灯で確認できます。

WX-CT11A

無効選択時 : トーク表示灯消灯、
マルチ表示灯消灯

4シフト選択時 : トーク表示灯点灯、
マルチ表示灯消灯

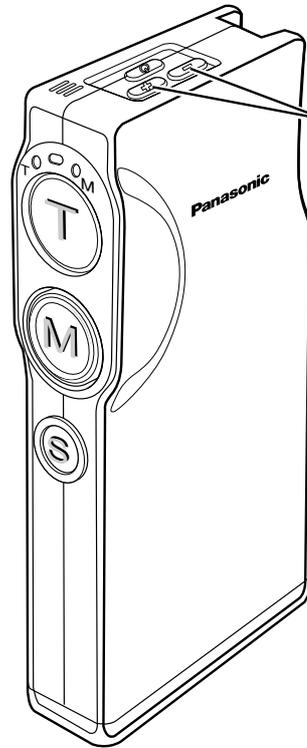
2シフト選択時 : トーク表示灯消灯、
マルチ表示灯点灯

WX-CT12

無効選択時 : トーク表示灯点灯、
マルチ表示灯消灯

3シフト選択時 : トーク表示灯消灯、
マルチ表示灯点灯

音量ボタン (+, -) を押す

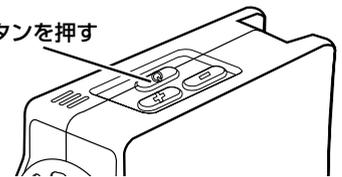


4

電源を切る

- 電源ボタンを約1秒間押してください。

電源ボタンを押す

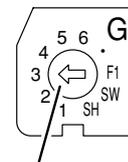


5

周波数グループを設定 (17~18ページ) し、電源を入れる

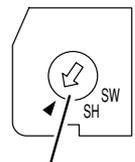
- 電源ボタンを約1秒間押して電源をONにすると、設定した内容でシフトボタンが動作します。

WX-CT11A



矢印を使用する周波数グループに合わせる

WX-CT12



矢印を“▲”に合わせる

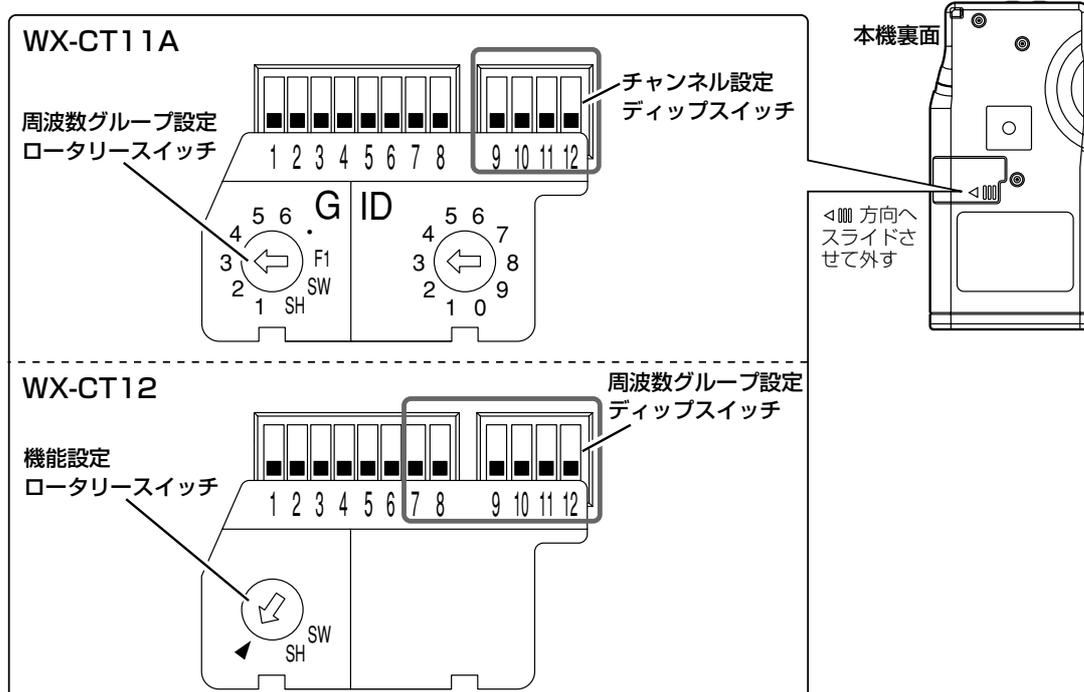
周波数を設定する

周波数グループを設定します。

- WX-CT11Aの場合
周波数グループ設定ロータリースイッチ : “1,2,3,4,5,6, •” のいずれかに設定します。
チャンネル設定ディップスイッチ : 本機が使用するチャンネルを選択します。
- WX-CT12の場合
機能設定ロータリースイッチ : “◀” に設定します。
周波数グループ設定ディップスイッチ : 本機が使用する周波数グループ（1～6）から最大3つまでの周波数グループを設定します。

重要 ● 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。

Memo ● 通話ができなくなったり混信が発生している場合は、設定した周波数の近くに外来の電波がある可能性があります。このような場合は、故障ではありませんので、周波数の設定を変更してください。



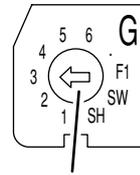
周波数を設定する（つづき）

●WX-CT11Aの場合

1

周波数グループを設定する

- 周波数グループ設定ロータリースイッチを“1,2,3,4,5,6,・”のいずれかに設定してください。



矢印を“1,2,3,4,5,6,・”のいずれかに合わせる
(センターユニットと同じ設定にする)

2

チャンネルを設定する

- 本機が使用するチャンネルのディップスイッチを“ON”に設定します。必ずいずれかのチャンネルを設定してください。
- 同時通話やエリア拡大の設定にする場合は、複数のチャンネルを設定する必要があります。詳しくは、センターユニットの取扱説明書をお読みください。
- 周波数グループ設定ロータリースイッチを“・”に設定した場合は、チャンネル設定ディップスイッチの12番スイッチを必ず“OFF”にしてください。



- 9番：1チャンネルのON/OFF設定
- 10番：2チャンネルのON/OFF設定
- 11番：3チャンネルのON/OFF設定
- 12番：4チャンネルのON/OFF設定



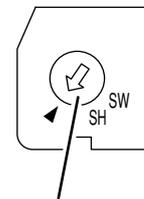
- 周波数グループとチャンネルの設定はセンタートランシーバーと同じ設定にしてください。センターマイクをセンタートランシーバーに接続して使用する場合は、センターマイクと同じ設定にしてください。センターユニットをご使用の場合は、センターユニットの取扱説明書をお読みください。

●WX-CT12の場合

1

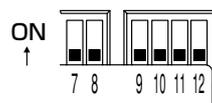
周波数グループを設定する

- 機能設定ロータリースイッチを“◀”に設定してください。



矢印を“◀”に合わせる

- 周波数グループ設定ディップスイッチ7番～12番を、各センターユニットの周波数グループと同じ設定にしてください。
- ディップスイッチの7番～12番スイッチは、同時に3つまでしか“ON”に設定できません。
- 詳しくは、センターユニットの取扱説明書をお読みください。



- 7番：周波数グループ1のON/OFF設定
- 8番：周波数グループ2のON/OFF設定
- 9番：周波数グループ3のON/OFF設定
- 10番：周波数グループ4のON/OFF設定
- 11番：周波数グループ5のON/OFF設定
- 12番：周波数グループ6のON/OFF設定

従来システムとの接続設定をする

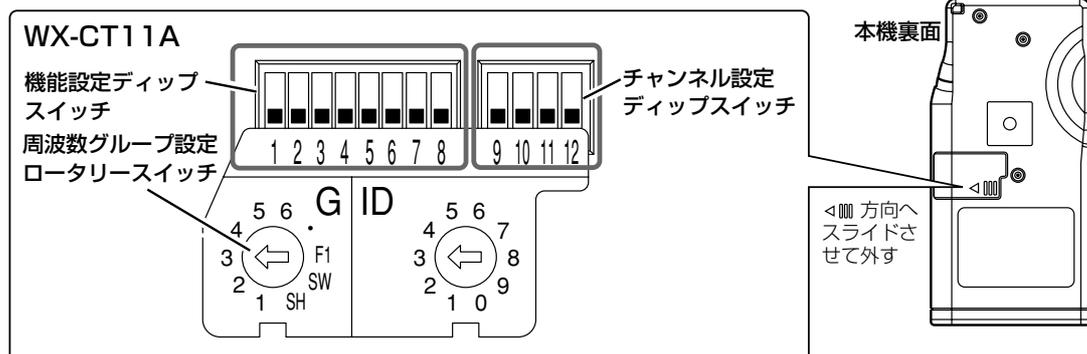
本機と組み合わせるシステムに合わせて設定します（WX-CT11Aのみ）。

従来システム：システム中にWX-C10シリーズ（WX-CC10、WX-CM10、WX-CT10、WX-CT11）がある場合

新システム：システム中の機器が全てWX-C10Aシリーズ（WX-CC10A、WX-CM10A、WX-CT10A、WX-CT11A）の場合（工場出荷時設定）

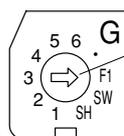


- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



1

電源OFFの状態で、周波数グループ設定ロータリースイッチを“F1”に設定する



矢印を“F1”に合わせる

2

電源ボタン、トークボタン、マルチボタンを同時に押す

- 1秒程度押し続けてください。初期設定モードで本機が起動します。（電源表示灯“赤/緑”交互点灯）

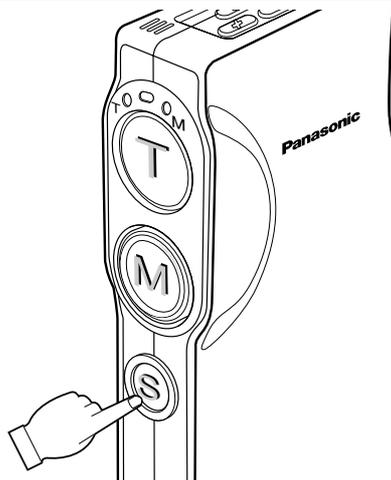
1秒程度、同時に押す



3

F1を設定する

- シフトボタンを押して選択してください。押すたびに新システム→従来システム→新システム→…と切り換わります。
- 設定状態は、トーク表示灯またはマルチ表示灯で確認できます。
トーク表示灯点灯：新システム
マルチ表示灯点灯：従来システム



設定

従来システムとの接続設定をする（つづき）

4

電源を切る

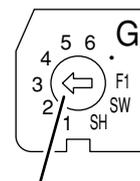
- 電源ボタンを約1秒間押してください。



5

周波数グループを設定（ 17~18ページ）し、電源を入れる

- 電源ボタンを約1秒間押して電源をONにすると、設定した内容でシフトボタンが動作します。



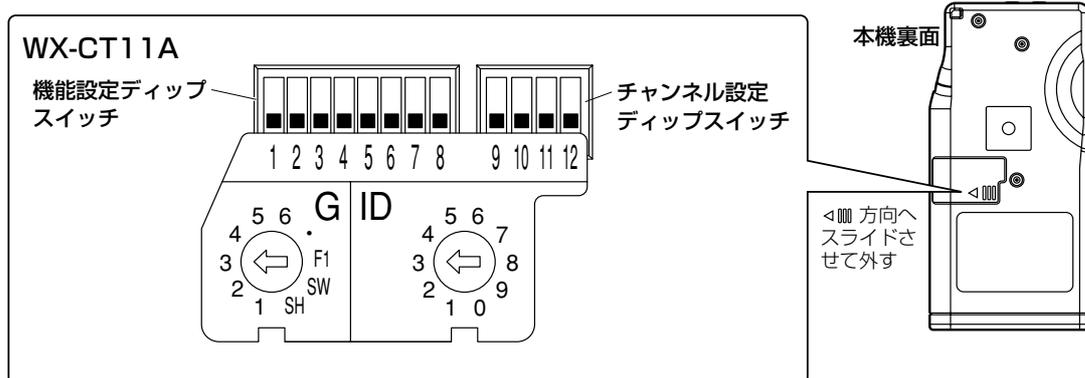
矢印を使用する周波数グループに合わせる

IDを設定する

センターマイクから本機を個別（ID毎）に指定して呼び出すことができ、20台まで設定することができます（WX-CT11Aのみ）。

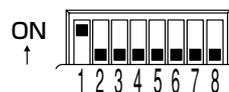
IDの設定は、ID設定ロータリースイッチと機能設定ディップスイッチの1番, 2番スイッチで行います。

- 重要**
- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



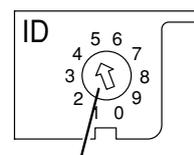
1 設定するIDの範囲を設定する

- 機能設定ディップスイッチの1番スイッチで設定してください。
ON : IDを1～10に設定する
OFF : IDを11～20に設定する



2 IDの一の位を設定する

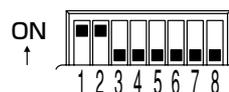
- ID設定ロータリースイッチで設定してください。
- 手順1の設定がONのときにID設定ロータリースイッチを5に設定すると、IDは“5”になります。
- 手順1の設定がOFFのときにID設定ロータリースイッチを5に設定すると、IDは“15”になります。



矢印を設定したい数字に合わせる

3 ID設定を有効にする

- 機能設定ディップスイッチの2番スイッチを“ON”に設定してください。
ON : ID設定が有効になります
OFF : ID設定が無効になります



- システムの中で、IDは必ず個別に設定してください。同じIDの本機があると正常に通信しません。
- IDを使用しない場合、本機の2番スイッチは必ず“OFF”にしてください。

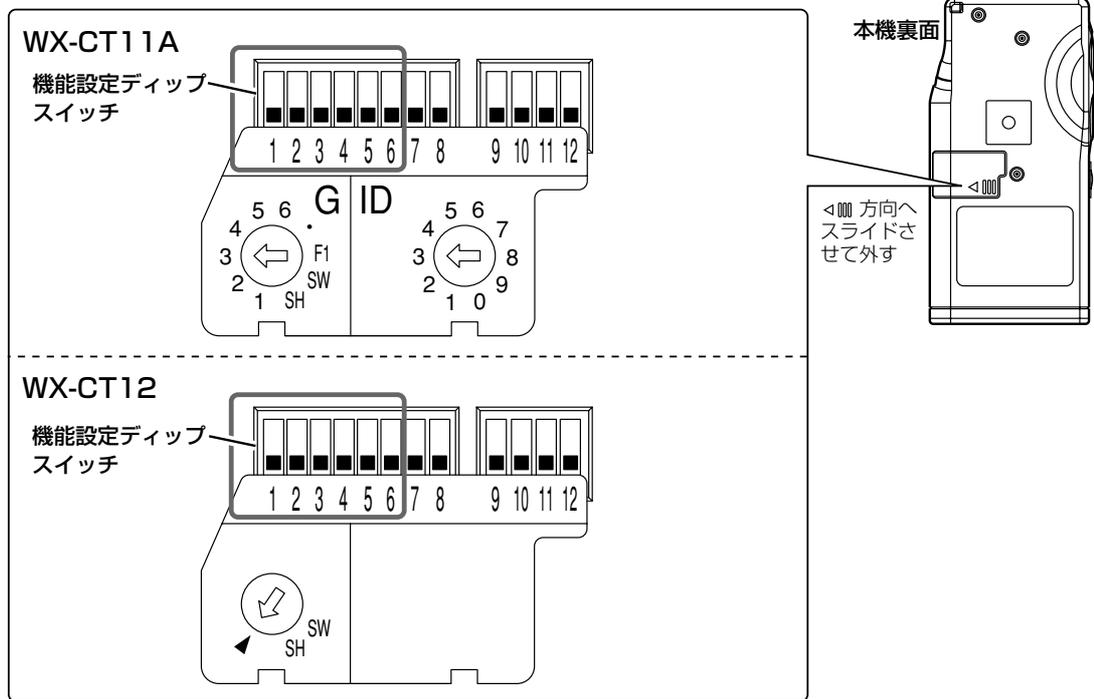
各種機能を設定する

機能設定ディップスイッチの3番～6番スイッチで各種機能を設定します。

- 3番スイッチ : 送信出力設定
- 4番スイッチ : スケルチ設定
- 5, 6番スイッチ : エリア拡大の設定
- ※ 7, 8番スイッチ : WX-CT11Aは未使用 (OFF固定)
WX-CT12は周波数グループ設定に使用 (☞ 17～18ページ)



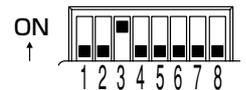
- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



送信出力の設定 機能設定ディップスイッチ「3番」

送信出力 10 mW / 1 mWを設定します。

- ON : 10 mW (工場出荷時設定)
- OFF : 1 mW

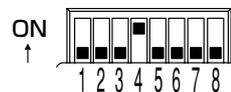


- 必ずセンターユニットと同じ設定にしてください。
- “10 mW” を使用する場合、法律の規定により、3分間通話をするると自動的に通信を切断し、2秒間通信が禁止されます。通話開始から2分30秒経過した時点で通信終了予告 (ピピピピッ) を行い、3分経過した時点で通信終了通知 (ブッブー) を行います。

スケルチの設定 機能設定ディップスイッチ「4番」

設置時のテストに使用するものです。通常は“ON（有効）”の状態でお使いください。

“OFF（無効）”に設定すると常時ミュート解除状態（常に通信内容やノイズが出力される）となり、通信が行われているか確認できます。



ON : 有効（工場出荷時設定）

OFF : 無効



- 本機が受信していないときにスケルチ設定を“OFF”にすると、イヤホンから過大なノイズが出力されます。スケルチ設定を“OFF”にする場合はご注意ください。

エリア拡大の設定

機能設定ディップスイッチ「5番、6番」

エリア拡大を構成するときの設定です。工場出荷時の設定は“OFF（エリア拡大の設定なし）”です。

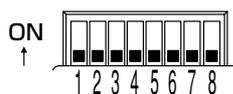
5番OFF、6番OFF : エリア拡大なし

5番OFF、6番ON : 1グループシステムエリア拡大

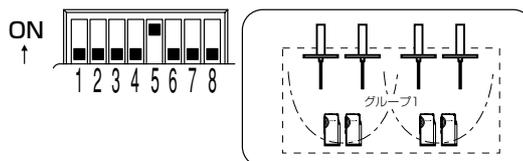
5番ON、6番OFF : 1グループシステムエリア拡大+同時通話

5番ON、6番ON : 2グループシステムエリア拡大

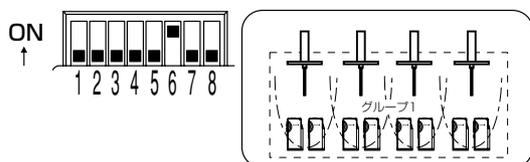
[エリア拡大なし]



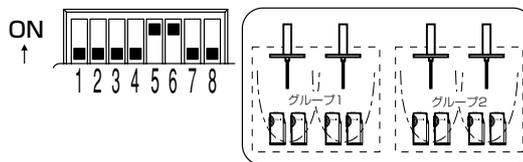
[1グループシステム エリア拡大+同時通話型]



[1グループシステム エリア拡大型]



[2グループシステム エリア拡大型]



- エリア拡大+同時通話に設定した場合は、チャンネル設定ディップスイッチ（9番,10番,11番,12番）をすべて“ON”にしてください。
- WX-CT12でもエリア拡大の設定が必要です。設定方法は、センターユニットの取扱説明書の「カスケードシステムについて」の項目をお読みください。

故障かな！？

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。
また、センターユニット、センターマイク、センタートランシーバーの取扱説明書も合わせてお読みください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
電源表示灯が消灯している	▶ ●電源は“ON”になっていますか？ →確認してください。	7
	▶ ●乾電池ケース（または充電電池ケース）は、両側ともロックされていますか？ →確認してください。	8
	▶ ●電池が消耗していませんか？ →新しい乾電池に交換、充電機の場合は充電してください。	8
通話できない	▶ ●本機と、システム他の機器（センターユニット、センターマイク、センタートランシーバー）の周波数は合っていますか？ →周波数を合わせてください。	17~18
	▶ ●エリア拡大の設定は、センターユニットと合っていますか？ →システム全体で合わせてください。	23
	▶ ●従来システムとの組み合わせの場合、従来システムとの接続設定をしていますか？ →設定を確認してください。	19~20
	▶ ●外来からの電波の影響を受けていませんか？ →別の周波数を選択してください。	17~18
ポータブルトランシーバー同士の同時通話ができない	▶ ●システム構成は、同時通話ができるものに設定していますか？ →設定を確認してください。	センターユニットの取扱説明書
	▶ ●チャンネル設定ディップスイッチが2つ以上“ON”になっていますか？ →設定を確認してください。	17~18
	▶ ●シフトボタンの設定をしていませんか？ →設定を確認してください。	15~16
場所によってポータブルトランシーバー同士の同時通話ができない	▶ ●センタートランシーバーの設置間隔が遠くなっていますか？ →設置間隔を確認してください。	センターユニットの取扱説明書
内蔵マイクからの音が出ない	▶ ●接続端子にマイクロホンに接続していませんか？ →接続を確認してください。	7
混信することがある	▶ ●外来からの電波の影響を受けていませんか？ →別の周波数を選択してください。	17~18

ユーザー通知一覧

本機では下記の内容について、ビープ音や表示灯の点灯・点滅で動作状態をお知らせします。

分類	内 容		ビープ音	表示灯
通知	発呼開始	マルチボタン（緊急）押下時	ブピブピブピ…	
通知	発呼完了		ピピッ	
警告	発呼失敗		ブブブブッ	
警告	発呼禁止		ブブブブッ	
通知	通話中	トークボタン押下時		トーク表示灯点灯
		マルチボタン押下時		マルチ表示灯点灯
		マルチボタン（緊急）押下時		マルチ表示灯点滅
通知	通話切断	トークボタン押下時	ピピッ	
		マルチボタン押下時	ピピッ	
		送信OFF時	ブブー	
警告	3分タイマー	通信終了予告（2分30秒経過時）	ピピピピッ （3秒おきに）	
		通信終了通知	ブブー	
通知	グループ移動	グループ1に移動時	ブピッ	
		グループ2に移動時	ブピピッ	
		グループ3に移動時	ブピピピッ	
		グループ4に移動時	ブピピピピッ	
警告	グループ移動	送受信中による移動禁止	ブブブブッ	
通知	電源ON時	通常モード起動時	ブピッ	電源表示灯“緑”点灯
		初期設定モード（SW）起動時	ブピッ	電源表示灯“橙”点灯
		初期設定モード（SH）起動時	ブピッ	電源表示灯“橙”点滅
通知	初期設定モード （SW）	トークボタン動作“トークロック”		トーク表示灯点灯
		トークボタン動作“プレストーク”		トーク表示灯点滅
		トークボタン動作“無効”		トーク表示灯消灯
		マルチボタン動作“トークロック”		マルチ表示灯点灯
		マルチボタン動作“プレストーク”		マルチ表示灯点滅
		マルチボタン動作“緊急”		マルチ表示灯2回点滅を繰り返す
		マルチボタン動作“無効”		マルチ表示灯消灯

その他

ユーザー通知一覧（つづき）

分類	内 容		ビープ音	表示灯
通知	初期設定モード (SH) (WX-CT11Aの場合)	シフトボタン動作 “無効”		両方の表示灯消灯
		シフトボタン動作 “4シフト”		トーク表示灯点灯
		シフトボタン動作 “2シフト”		マルチ表示灯点灯
通知	初期設定モード (SH) (WX-CT12の場合)	シフトボタン動作 “無効”		トーク表示灯点灯
		シフトボタン動作 “3シフト”		マルチ表示灯点灯
通知	電源OFF時		ピブッ	電源表示灯消灯
通知	受信音量変更	音量アップ時	ピッ	
		音量ダウン時	ブッ	
		音量変更不可（上限到達時）	ピピッ	
		音量変更不可（下限到達時）	ブブッ	
警告	スイッチ設定異常	（周波数グループ設定ロータリースイッチが “1,2,3,4,5,6, • ” 以外に設定されている）		電源表示灯 “赤” が 早く点滅
警告	機器異常	お買い上げの販売店に修理を依頼してください		電源表示灯 “赤” が ゆっくり点滅
警告	電池残量	ワーニングレベル検出（残量少）	ブッ（5秒おきに）	電源表示灯 “赤” 点灯
		ミュートレベル検出（残量0）	ピブ	電源表示灯 “赤” 消灯
通知	緊急連絡受信中		ブピブピ（5秒おきに）	

仕様

電波形式	F2D、F3E
発振方式	水晶制御PLLシンセサイザー方式
変調方式	リアクタンス変調方式
空中線電力	10 mW / 1 mW切り換え
到達距離	約60 m (10 mW設定時、屋外見通しにて)
変調感度	±0.85 kHzFM (94 dB SPL at 1 kHz、内蔵マイクにて)
使用マイク	エレクトレットコンデンサマイクロホン
周波数特性	300 Hz~3 kHz (1 kHz基準50 μsエンファシス)
最大入力音圧	104 dB SPL
入力等価雑音	40 dB SPL (Aカーブ) 以下
使用電池	単4形乾電池 (3個) または充電電池パックWX-CB11
消費電流	約90 mA (3.6 Vにて)
連続動作時間	充電電池パックWX-CB11使用時：約15時間 (新品の充電電池パック満充電状態、周囲温度25℃、送受信：1分、待受：9分使用時)
使用温度範囲	0℃~+40℃
寸法	幅58 mm 高さ120 mm 厚さ21 mm (突起部含まず)
質量	約140 g (電池含む)
仕上げ	PC+ASA樹脂 (ダークブルーメタリック調塗装)

●周波数表

送信周波数	受信周波数	周波数グループ							
		G1	G2	G3	G4	G5	G6	G・	
421.5750 MHz	440.0250 MHz	①							
421.5875 MHz	440.0375 MHz		①						
421.6000 MHz	440.0500 MHz								①
421.6125 MHz	440.0625 MHz	②							
421.6250 MHz	440.0750 MHz		②						
421.6375 MHz	440.0875 MHz			①					
421.6500 MHz	440.1000 MHz				①				
421.6625 MHz	440.1125 MHz					①			
421.6750 MHz	440.1250 MHz						①		
421.6875 MHz	440.1375 MHz	③							
421.7000 MHz	440.1500 MHz			②					
421.7125 MHz	440.1625 MHz				②				
421.7250 MHz	440.1750 MHz					②			
421.7375 MHz	440.1875 MHz						②		
421.7500 MHz	440.2000 MHz		③						
421.7625 MHz	440.2125 MHz								②
421.7750 MHz	440.2250 MHz	④							
421.7875 MHz	440.2375 MHz								③
421.8000 MHz	440.2500 MHz	-	-	-	-	-	-	-	-
421.8125 MHz	440.2625 MHz		④						
421.8250 MHz	440.2750 MHz			③					
421.8375 MHz	440.2875 MHz				③				
421.8500 MHz	440.3000 MHz					③			
421.8625 MHz	440.3125 MHz						③		
421.8750 MHz	440.3250 MHz			④					
421.8875 MHz	440.3375 MHz				④				
421.9000 MHz	440.3500 MHz					④			
421.9125 MHz	440.3625 MHz						④		

※チャンネル①~④について

- センターユニットを含むシステム構成の場合、周波数グループ設定ロータリースイッチで設定されたG1~G6、G・の①~④は、センターユニットのセンタートランシーバー入出力端子1,2,3,4に対応しています。
- センターユニットのないシステム構成の場合、周波数グループ設定ロータリースイッチで設定されたG1~G6、G・の①~④は、チャンネル設定ディップスイッチで設定したチャンネル番号に対応しています。(センタートランシーバーをセンターマイクと接続、またはセンタートランシーバー単独使用のシステム)

保証とアフターサービス

よくお読みください

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このポータブルトランシーバーの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

24ページの表に従ってご確認のあと、なお異常のあるときは、電源を切ってから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容

品名	ポータブルトランシーバー
品番	WX-CT11A、WX-CT12
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WX-CT11A、WX-CT12
	販売店名	電話（ ） —				

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒153-8687 東京都目黒区下目黒二丁目3番8号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410